

石川県剣連だより

剣風春秋

第50号
一発行一

一般財団法人
石川県剣道連盟

〒920-0811
金沢市小坂町西57-3 KSハイツ205号室
TEL 076-253-0310 FAX 076-253-0341
E-mail:ishikawa-kendo@iaa.itkeeper.ne.jp
URL www://ishikawa-kendo.com

剣道再開



専務理事
宇波 和彦
(教士八段)

一 はじめに

新型コロナウイルス感染症が発症し2年以上翻弄続きの中、本県でも剣道を愛する人たちが全日本剣道連盟のガイドラインに従い、感染の収束を切望しながら様々な制約の中で真摯に取り組んできました。

無観客での大会や講習会、段位審査等が一部開催され、各種事業で新しい角度から再開に向けて安全安心を土台とした運営方法等に創意工夫が見られるようになりました。

また、昨年8月に開催された「第68回全国高等学校剣道大会」での「人の移動に関する導線」「繊細な感染対策」の計画と実践は今後の大会運営の礎となるもので、県高等学校体育連盟・同剣道専門部の関係者の献身的な取り組みに深く感謝しております。

二 継続した取組み

本県の対人稽古再開に伴い、直接的感染事例はあまり出ていないことから県内の各団体において適切に感染対策を実践していただいたことに誇りを感じます。特にジュニア・中高生においては、他競技がマスクをせず活動しているのを目の当たりにし疑問を感じながらも取り組んでいる姿から、以前にもましてこの少年達を育てることの大切さを痛感しました。

これからも全ての剣道関係者において稽古時の「マスク・シールドの着用」「稽古後の不織布マスクの着用」「手指の消毒」「手洗い・うがい」「対人距離の確保」や【各自が自分の身を守るに必要な方法】等を継続していくことで、剣道から感染者を出さないよう、コロナに打ち勝つ自信と感染対策への達成感を持つよう願っております。

また、非常に苦しくなる季節となり「熱中症」に十分注意しながら、マスク・シールド着用における稽古の理解を深め、安全対策に工夫することで「呼吸の鍛錬に関する効果」などプラス思考での取り組みをお願いします。

特集記事

- 3頁「本県校種別剣道人口について」
- 5頁「郡市剣道紹介コーナー」
鹿島郡・七尾市剣道連盟
- 6頁「心・技・体」を揃える取組み
金沢桜丘高等学校剣道部

三 競技力向上について

このコロナ禍において昨年度の全日本選手権における有名選手の初戦敗退にみられるように全国的に競技力の低下が危惧される中、本県でも昨年来の各種全国大会や三年ぶりに行われた県下郡市対抗剣道大会を総括するとき、稽古の「量と質」を高める取り組み方に足りなさを感じました。

しかし、このような状況下においても他県の全国大会上位進出や、中央審査会での合格者の輩出から強化方針と実践が喫緊の課題となります。

また、本県の高校生の大会を評価すると、速さを求めるがための「打つ」より「差し込む」ような右手中心の竹刀操作が「間違った主流」となっていることに危機感を覚えます。

基礎基本を中心とした骨太強化の間確保が十分にできない中、ようやく意欲のある若手剣道家による垣根を越えた合同強化練習が定着しようとしていた矢先の禍で、各自が積極的に稽古の場を求め「量と質」を高めることを期待します。

四 現状打破への取組み

稽古の自粛や参加者の制限・大会等の中止で、稽古へのモチベーションが著しく低下し、稽古の機会が県内各地区だけの狭い範囲に止まってしまいました。そしてこの現象が今まで培ってきた剣道への情熱を低下させ、現在の稽古不足に「負の満足感」を持ち、今の稽古環境と量に「妥協」してしまったのではないのでしょうか。

剣道には【打つて反省・打たれて感謝】という他競技の方には理解しにくい言葉があります。剣道を続けてこられた皆さんは成功した場合は次の領域に向かって、上手いかなかった時には「捲土重来」を期して更なる精進をしてきたと思います。今一度修行してきた意欲ある自分を思い返し、新たな気持ちで二歩前進した稽古を期待します。

五 結びに

本県剣道の「普及と発展」「競技力と質の向上」のために、月一回「日本剣道形各種稽古法」に工夫を加えた「合同稽古会」を実施しております。是非この機会を【交剣知愛】と有意義に捉え、勇気を持って参加していただくことをお願いいたします。また、剣道は世代を問わず共通の話題と活動ができる唯一の競技です。このことを最大限に活用し対話や交流を密にして心身ともに互助できる魅力ある連盟となっていくことが、本県剣道人口拡大への布石であり、今後も会員の皆様のご協力をお願いします。

春の叙勲より

広報委員会

この春の叙勲で本県剣道連盟顧問の柘谷敏雄先生がスポーツ振興・功労者として「旭日单光章」をめでたく受章されました。



先生は、昭和35年3月羽咋高等学校卒業後、同年4月に石川県警に奉職し、合わせて石川県剣道連盟に所属、国民体育大会をはじめ全国都道府県対抗剣道大会、全日本剣道選手権大会、全国警察剣道大会、全国警察剣道選手権大会など数々の全国大会に本県代表選手として活躍されました。

本県剣道連盟においては、昭和56年4月から30年にわたり、事務局長（8年）、副理事長（4年）、理事長（18年）を務められ、平成23年4月から今日まで当連盟顧問として、引き続き剣道の普及・振興、

競技力の向上、組織運営に尽力いただいております。

特に、本県で開催された平成3年の「石川県体」では強化責任者として、総合優勝（成年一部・同二部・少年男子優勝、少年女子第5位）に大きく貢献し、石川県体後も強化を継続、県剣連全体の競技力維持に努めるとともに、平成4年と平成5年の「全国教職員剣道大会」では2年連続優勝、平成6年の「全国家庭婦人剣道大会」では準優勝、平成8年の「全日本居合道大会」では団体3位入賞、更に、平成22年の「ねんりんピック石川2010」では優勝、2位、3位を独占という華々しい実績へと導かれました。

一方、本県剣道連盟の組織運営においても、各種委員会による組織化、財務の健全化を図り、今日の基礎基盤を形成し、組織体制の基盤整備にも尽力されました。

平成25年度には全剣連より剣道有功賞を受賞、現在も本県剣道連盟顧問として、当連盟稽古会に欠かさず参加し、シニアの生涯剣道を率先垂範し、後輩の指導に当たっておられます。

会員一同この度の晴れの叙勲を心

からお祝い申し上げますとともに、先生の益々の御健勝をお祈りいたします。

能登の居合道教室

居合道委員会

これまで指導者不在により開講できなかった能登地区において、昨年六月待望の居合道教室が誕生し、一年が経ちました。

居合道は、激しい動きが少ないことから年齢に関係なく楽しめる武道として、近年高齢者や女性を中心に人気が出てきており、南信廣県剣連会長の呼び掛けで七尾市での開講が実現しました。

県剣連と七尾市剣道連盟が共催の下、講師には相川八郎教士七段（金沢市）を招聘し、月二回居合道の普及に七尾を訪れていただいています。現在、教室生は剣道や剣舞の経験者をはじめ女性も多く13名となりました。

四月三日（日）県立武道館にて行われた級位審査会では、8人が一級を取得し、夏の審査会で待望の段位を目指して益々稽古に熱が上がつてきています。

教室は第二・第四土曜日の午後三時～五時、月2回の開催となっておりますので、見学や入会を希望されます方は七尾市剣道連盟副会長の梅平進（へいしん）さん 0767（53）5544までお問い合わせください。



なお、現在「内灘居合道稽古会」「県剣道連盟居合道部県武教室」「安原公民館居合道教室」「森本剣友会」「養浩館居合道部」「小松居合道教室」等、県内各地で稽古しております。興味のある方は是非一緒にやってみませんか。

特集

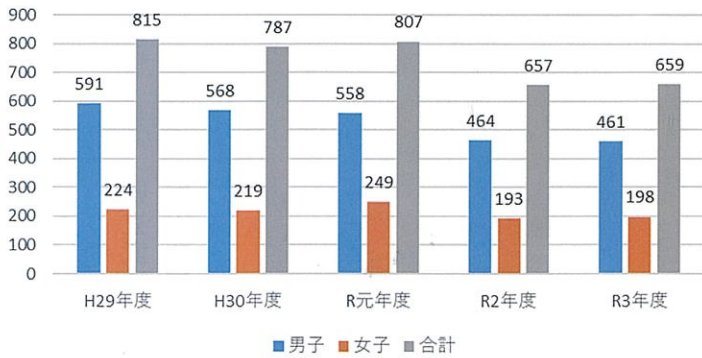
本県校種別剣道人口について

普及委員会

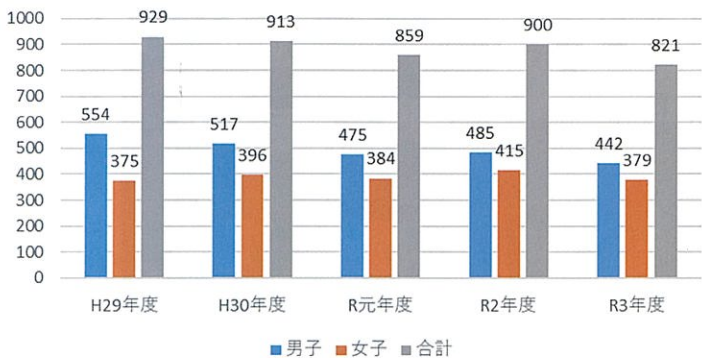
小学校

昨年度は、コロナ禍にもかかわらず男女ともに大きな変動が見られず、卒業児童数と同程度の新規教室生確保が行われた結果とされます。活動の大幅な制限で、体験会などが開催できず新規教室生の確保は苦難の連続だったと思います。小学生だからこそ、競技面もさることながら剣道本来の楽しさや所作を大切にし指導

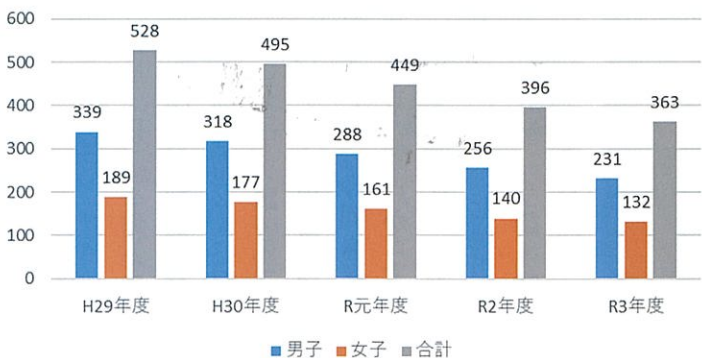
校種別剣道人口(小学校)



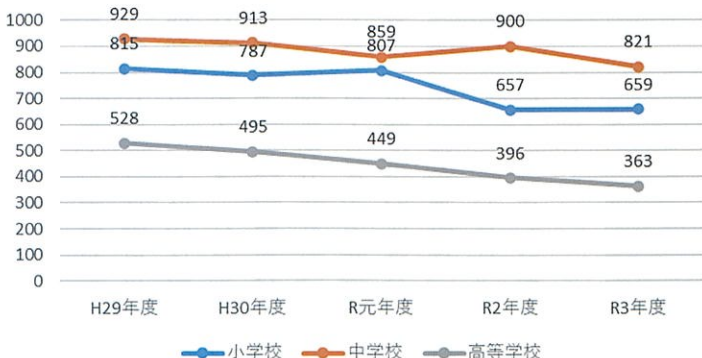
校種別剣道人口(中学校)



校種別剣道人口(高等学校)



剣道人口推移(近5年間)



中学校

一昨年度は男女とも前年度に比べやや増加しましたが、昨年度は新入生が卒業生より少なかったことから約10%の減少となりました。全体的には緩やかな減少傾向で、男子の減少が顕著となりつつあります。校種別では最も剣道人口が多く、これをいかに高校へと繋げていくかが大きな課題です。初心者層が高校での継続に繋が

に当たること、人格形成や生涯剣道を目指す下地作りに繋げていただければと思います。

高等学校

剣道人口減少に歯止めがかからない現状です。全体的に高校生の数が減少しているため、今後も減少傾向は続くと予想されます。初心者が高校で始めるには経験者と技術面で差が大きく、途中で辞めてしまう事例も見られます。また、高校によっては部員数に偏りが出る傾向が強く、指導者不在、部員不足などの理由から継続困難となり、休部を余儀なくされる学校も

るような目標の設定、指導の在り方や工夫が必要と思われる。

今後の課題

全体として減少傾向が続いており、特に高等学校における剣道競技人口が平成29年から令和3年にかけて165名(約32%)の減少が見られます。対策として校種間連携をより密にし、中・長期目標の下で計画的に競技人口確保に向けた基盤を整える必要があると考えます。

あるやに聞きます。試合競技としての側面がどうしても強くなることから、どのような目標を持たせて生涯剣道に繋げるかが大きな課題とされます。

第59回石川県居合道大会 居合道委員会

4月3日(日)、県立武道館において南信廣会長、徳田伸一館長の隣席の下開催されました。



大会に先立ち、午前中は中村正人居合道委員長(範士八段)による「全日本剣道連盟居合」の講習が行われました。その後、級位審査会が行われ、受審者8名が合格しました。午後からは居合道大会(優秀選考演武)が行われ、県内各教室より50余名の参加者の下、段外から六段までの五部門による演武により、最優秀選手と優秀選

手が選考されました。選考演武後は、七段演武と八段模範演武が披露されました。



(各段最優秀賞受賞の皆さん)

【大会結果】

- 六段の部
 - 最優秀賞 西村真人(県武)
 - 優秀賞 北川裕美子(金沢梅鉢)
 - 優秀賞 高柳陽一(養浩館)
- 五段の部
 - 最優秀賞 越野美喜(県武)
- 三段・四段の部
 - 最優秀賞 田中 甚(県警)
 - 優秀賞 最上 進(小松教室)
- 二段の部
 - 最優秀賞 野村風沙(安原教室)
 - 優秀賞 浅井由真(内灘)
- 優秀賞 四十万谷正久(県武)
- 段外・初段の部
 - 最優秀賞 湯浅愛美(小松)
 - 優秀賞 高橋英之(七尾教室)

剣道中央伝達講習会 普及委員会

4月17日(日)、令和4年度の剣道講習会が開催されました。本講習会は、本年4月2〜3日に開催された「剣道中央講習会」(受講者 宇波和彦専務理事)に基づき開催されました。今回もコロナウイルス感染対策の観点から、会場を加賀(小松市武道館)、金沢(県立武道館)、能登(七尾市武道館)の三会場に分散し受講生90名での開催となりました。



(小松会場)

講習内容は、日本剣道形指導法・審判法の三本立てで行われ、主任講師として加賀会場は岩脇司教士八段、金沢会場は杉本卓也教士八段、能登会場は宇波和彦教士八段がそれぞれ担当し、日本剣道形の留意点の指導、剣道講習会資料に基づいた解説がありました。

中でもコロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合・審判法についての実践指導では、講師の一言一句に大きく傾き、伝達講習に相応しい真剣な眼差しで充実した講習会となりました。



(七尾会場)

特集

郡市剣道連盟
紹介コーナー

鹿島郡剣道連盟

横井 隆明

鹿島郡剣道連盟は、中能登町一郡一町で構成されております。当連盟の特長と言えることは、毎月第三金曜日、夜六時三十分から午後八時三十分まで「ふれあい剣道」と称して中能登中学校剣道場で、町内の小学生から一般までが一堂に会して、老若男女を問わず合同稽古に励んでいることです。



この稽古の目的は、教室、学校などの枠組みを取り払い、地域の剣道愛好家が、竹刀を交えることにより、地域剣道の継続、融和、発展を狙うものです。

「交剣知愛」にふさわしい土壌へと変わりつつあります。これからも当連盟の特長的な事業として、継続してまいりたいと考えています。

また、若手を中心となりますが、これ以外に毎週金曜日の夜に一般だ

けの稽古会を鹿西武道館で行っており、この稽古会では、近隣地域の若手愛好家より沢山参加いただいております。



このほか、当連盟の主要事業では、県剣道講習会、全能登少年剣道大会、全能登中学校新人剣道大会を主管しております。特に全能登の両大会は、今年度で五十六回を数え、長い歴史の中で、全国大会で活躍された優秀な選手が数多く参加されております。

しかしながら、近年は少子化に伴い参加団体が激減しており、このままでは数年後に大会の継続が難しくなる事態が危惧され、これを

打破する取り組みを当連盟のみならず能登地区が一つになって実践することが喫緊の課題であると感じております。

今後とも剣道人口の確保を念頭におき、当連盟の事業の継続・発展を勘案し、能登地域の各連盟の方々と連携を図りながら、微力ではありますが、県剣道連盟の一助となるよう努力してまいりたいと考えております。

七尾市剣道連盟

高山 秀峰

七尾市剣道連盟は、平成三年に完成した七尾市武道館を連盟稽古会場として活動しております。



毎週水曜日に七尾市内の各少年剣道教室の合同稽古会が終了した午後八時から九時半頃までを定例稽古会としております。

稽古会は開放的な雰囲気、当連盟会員の他、七尾市内に勤務する一般の方、近隣市町の剣道愛好家、市内の中・高校生も参加しています。

特に、県剣道連主催の各種講習会受講者を講師として当連盟としての伝達講習会を開催し、会員相互のレベルの向上に努めています。



更に、昨年六月より県剣連から専任講師を招き居合道教室を第二・四土曜日の午後三時から五時まで開催し、能登地区での居合道の普及に取り組んでいます。

今後、人間形成の場として、更には生涯スポーツとしての剣道をはじめ居合道の普及に会員が丸となって取り組んで行きたいと思っております。



特集

「心・技・体」を揃える取組み
〜インターハイ優勝を目指して〜

金沢桜丘高等学校

剣道部顧問 久保 洗旗
小田 哲生

6月開催の県総体では、男女アベック優勝（平成15年以来19年ぶり）を果たすことができました。三桜存養会（OB会）や本校の教職員をはじめ多くの方々の支援、様々な幸運、そして何よりも選手が努力が実を結び、このような結果を残すことができました。感謝申し上げます。8月開催の高知インターハイに向けて、さらにギアを上げて練習に励む所存です。

さて、本校剣道部では「社会に貢献できる人材育成」や「本物に身につける本気の取組み」を目指します。これらを実現するために「心・技・体」を揃える必要があります。特に「心・体」については、私自身が指導できないわけではありませんが、趣味程度のレベルです。そこで、資格を保有し、かつ指導実績のある外部コーチと連携を取り、スタッフがチームを作って指導に当たっています。

「心」では、モチベーションの向上を目的として、選手たちの成長イメージを具体化し、やるべきことを明確にします。練習の質を上げ、成長速度を加速させます。また、大会に向けた心の準備や不安の解消など、本番で力を発揮するためのサポートもしています。

「技」では、剣道ならではの対人技能の獲得を目的として主にオープンスキルの練習を行います。選手一人一人の特徴に合った攻め方や守り方を個別に指導します。

「体」では、体力の向上と動きの多様性を身につけることを目的として、フィジカルトレーニングを行っています。また、トレーニングや稽古で酷使した体をケアする方法も指導しています。鍛錬と回復の両面をサポートしているところが特長です。

また、選手はスマホで「心と体の状態」を入力して、自身の体調を数値で把握しています。練習の振り返りも同様にスマホで行います。

「心・技・体」は独立せず、円のようにつながります。「心・技・体」全てに共通する要素は「自己理解」です。選手が自分自身をよく理解してはじめて、自身の能力を高めることができ、また本番で自身の能力を発揮することができます。

最後に、執筆の機会を与えてくださった石川県剣道連盟に感謝申し上げます。拙い文章であるにもかかわらず、最後まで読んで頂き誠にありがとうございます。今後石川県の剣道界の発展に貢献していく所存です。



R4北信越
男子団体優勝



R4県総体
男女団体優勝



「第12回女子剣道指導法講習会」に参加して

女性委員会 中 明美

(剣道教士七段)

5月7日(土)・8日(日)の両日、小田佳子先生と標記講習会を受講させて頂きました。

今回の講習会は、昨年度の2月に行われる予定だった兵庫県の講習会が延期になり、静岡県のご協力を得て行われました。まだまだ油断ができない状況で、全日本剣道連盟のガイドラインを守りながらの講習会の始まりとなりました。

久しぶりの講習会開催に全国から女性が集い受講できましたことは、いつも以上に喜びと感謝の気持ちで一杯でした。

一日目は、真砂威副会長による「女子剣道指導者への期待」の講話から始まり、日本剣道形、稽古法、



五角稽古の実技が行われました。日本剣道形では、解説書の言葉をよく理解し、

日頃から日本剣道形の稽古に励むことの必要性を改めて感じました。

二日目は、「木刀による剣道基本技稽古法」、「指導法」、「幼少年の指導」「五角擬古」が行われました。

藤田弘美教士による幼少年の指導では、「何を指導するか」を明確に行うことや、子供たちの「やる気」を引き出す、わかりやすい指導のポイントを教えていただきました。

その中で実際に行ったことは、他県の方とグループを作り、礼(挨拶)↓じゃんけん↓自己紹介↓礼(グータッチ)して相手を交代する取り組みでは大変盛り上がり、子供たちがとても興味を持つ試みだと思いました。

今回、藤田教士の講話は、女性の特性を考えた内容で、これから剣道に関わっていく女性に活かせるものであり、持ち帰り伝えたいと思いました。



コロナ禍ではありましたが、素晴らしい先生方による充実した講習会を受講させていただき、初心者、初級者に対して、正しく剣道の指導ができるよう心がけて参ります。

中央審査合格体験記
六段審査を受けて



宝達志水町

中西 優登

この度、二月の中央審査で六段に合格させていただきました。審査に向けて努力したことや考えたこと、気持ちの在りよう等を私なりにまとめてみたいと思います。今後チャレンジされる方の参考になれば幸いです。

合格の一番の要因は「審査の立ち合いで何ができていればいいか」というゴールイメージが明確になっていたことだと思えます。稽古に取り組む中で先生方からのアドバイスを受け、自分なりの目標を

- ① 先をとって主導権を握る
- ② 相手を動かす
- ③ 打ち切る

の三つに決め、これらができるようにと努力しました。

また、立ち合いの二分間の流れの中で、相手より先に前に出る、相手の声にかぶせるように発声する、打突後に相手より先に構える、審査員から見やすい位置に率先して移動する等を意識しました。こうすることで、自分の方が相手より格が上であることを表現できると考えました。

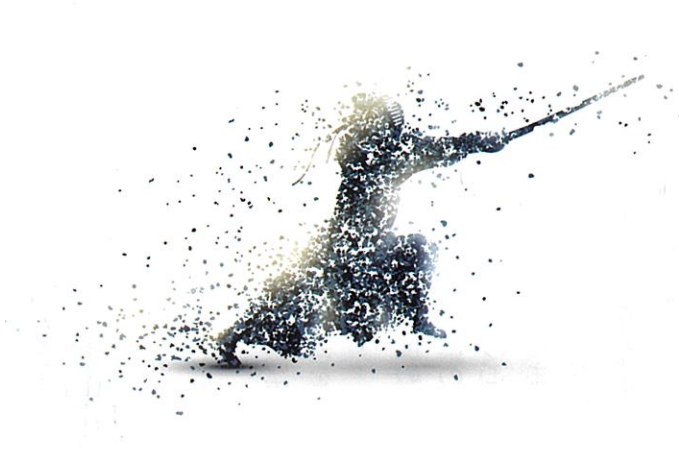
審査には前日に現地入りしました。夜になりだんだんとドキドキが増してくる一方で「練習の成果を発揮するのが楽しみ」というワクワクも高まってきました。テレビではオリンピックの女子カーリングを放送しており、楽しそうにプレイしている様子を見て「明日は自分も楽しもう」と思いました。

立ち合いの順番は「D」だったので、相手の様子を見ることができました。二人ともきれいな構えからしっかり攻め合っていたので、相手と攻め合うイメージ、先をとるイメージをもつて順番を待ちました。

立ち合いでは初太刀で出ばな面を打つことができ気持ちに余裕が生まれました。練習してきた技を打とうと思いい技を狙ったところ、面返

し胴や面すり上げ面、出ばな小手、小手すり上げ面など、驚くほど手ごたえを感じる事ができ、剣道の楽しさや奥深さを再認識する事ができました。

結びに、稽古をつけてくださった北川信之先生、山本重之先生、羽昨木錬会の先生方、自主練に付き合ってくれた本吉秀充先生、平戸和宏先生に心より感謝申し上げます。ありがとうございます。



〔全国大会等記録〕(1~6月)

第30回全国高等学校剣道選抜大会

3月26~28日、春日井市総合体育館

男子団体

一回戦

明大中野(東京)③-①0市立工業

女子団体

一回戦

岡崎城西(愛知)③-①0羽 昨

第59回全日本居合道高知大会

4月17日、高知県立青少年センター

六段男子の部

ベスト16

高柳 陽一(養浩館居合道部)

六段女子の部

準備勝

北川裕美子(金沢梅鉢稽古会)



第70回都道府県対抗剣道優勝大会

4月29日、エディオンアリーナ大阪

二回戦

| | | | | | | | |
|-----|-----|----|----|----|----|-----|----|
| 高山市 | 多賀川 | 入江 | 大平 | 増森 | 栃木 | ③-① | 石川 |
| 濱中 | メー | メー | メー | メー | メー | メー | 尾崎 |
| 杉本 | 尾崎 | 後藤 | 西川 | 下池 | 供田 | 指田 | 石川 |

北信越高等学校剣道大会

6月17~19日、福井県立武道館

男子団体

予選リーグ

市立工業 予選3位

金沢桜丘 予選1位(決勝Tへ)

津幡 予選4位

羽昨工業 予選4位

準々決勝

金沢桜丘 ②-① 帝京長岡

準決勝

金沢桜丘 ③-①0 丸 岡

決勝

金沢桜丘 ③-①1 龍谷富山

※優秀選手 松本恭典(金沢桜丘)

女子団体

予選リーグ

金沢桜丘 予選3位

金沢 予選3位

星稜 予選2位(決勝Tへ)

羽昨 予選4位

準々決勝

佐久長聖 ②-①0 星 稜

女子個人

第三位 野口 聖乃(羽昨)

ベスト8 酒井 英(星稜)

中央審査会合格者

剣道

七段

六段

錬士

| | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| 小西 博 | 中西 優登 | 三嶋 惇也 | 安田 佳史 | 中澤 広樹 | 小西 博 |
| 吉田 一気 | 本吉 秀充 | 達和 茂 | 山元 大輔 | 北川 憲一 | |

林藤武道具店

〒920-0803 石川県金沢市神宮寺町1番地83
Tel.076-252-2220 Fax.076-252-2240
HP <http://www.rindoubudougu.jp/>
E-mail:budou@chive.ocn.ne.jp

●定休日/月曜日

【営業品目】
剣道・柔道・空手・なぎなた・武道具全般
(剥離・ゼッケン・ネームプリントも承ります)



武道具の
ハチモト

金沢市上荒屋7丁目67 TEL249-8233
〒921-8065 FAX249-9139